



DEEPTIME

IONIC

サウンドシステム

取扱説明書

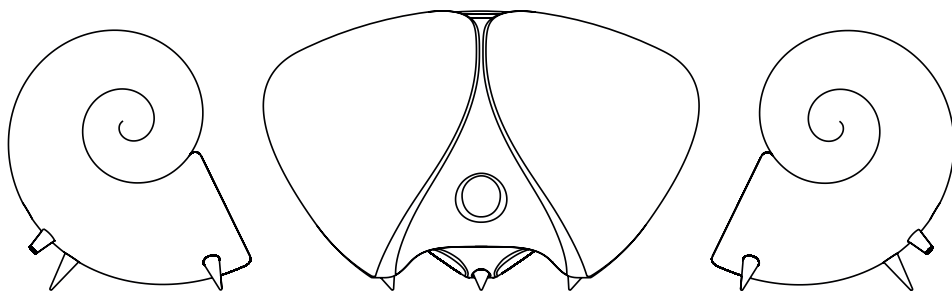
操作を開始する前に必ず本書をよくお読みいただき、
機器や元箱と一緒に保管しておいてください。



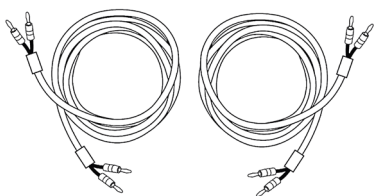
目次

内容品一覧	4
Ionicサウンドシステムを接続する	5
Spirulaスピーカーを接続する	5
Ionicサウンドシステムをテレビと接続する	6
Ionicサウンドシステムを他の機器に接続する	6
電源を入れる	7
Ionicサウンドシステムを設置する	8
Spirulaスピーカーを設置	8
Thunderstoneサブウーファの設置	9
Ionicサウンドシステムを使う	10
上部パネル	10
リアパネル	10
Bluetooth接続(ペアリング)手順	12
ケーブル入力 (AUXミニプラグ/光デジタル)	12
Ionicサウンドシステムの状態について	13
オート・スタンバイ	13
オート・ウェイクアップ	13
工場出荷時の状態に戻すには	13
仕様	14
トラブルシューティング	15
保証とアフターサービス	16
電波法に基づくBluetoothの技術基準適合証明に関する情報	16
安全情報	17
保守について	18
クリーニングについて	18
廃棄について	18
警告	18
免責事項	19
責任の制限	19
他社製ソフトウェアについて	19
適合宣言書、その他EUの規制に関する記載など(英語)	20

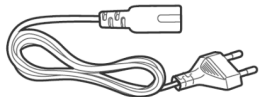
内容品一覧



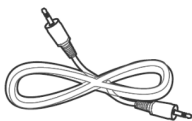
Thunderstoneサブウーファ
Spirulaスピーカー・ペア



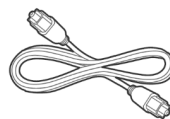
DEEPTIMEプレミアムオーディオケーブル・ペア



電源ケーブル



ステレオミニ(AUX)ケーブル



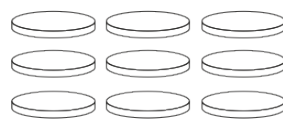
光デジタル(TOSリンク)ケーブル



クリーニングブラシ



取扱説明書(本書)



滑り止め防止パッド9個

Ionicサウンドシステムを接続する

世の数ある商品の中からIonic(イオニック)サウンドシステムをご購入いただき、誠にありがとうございます。

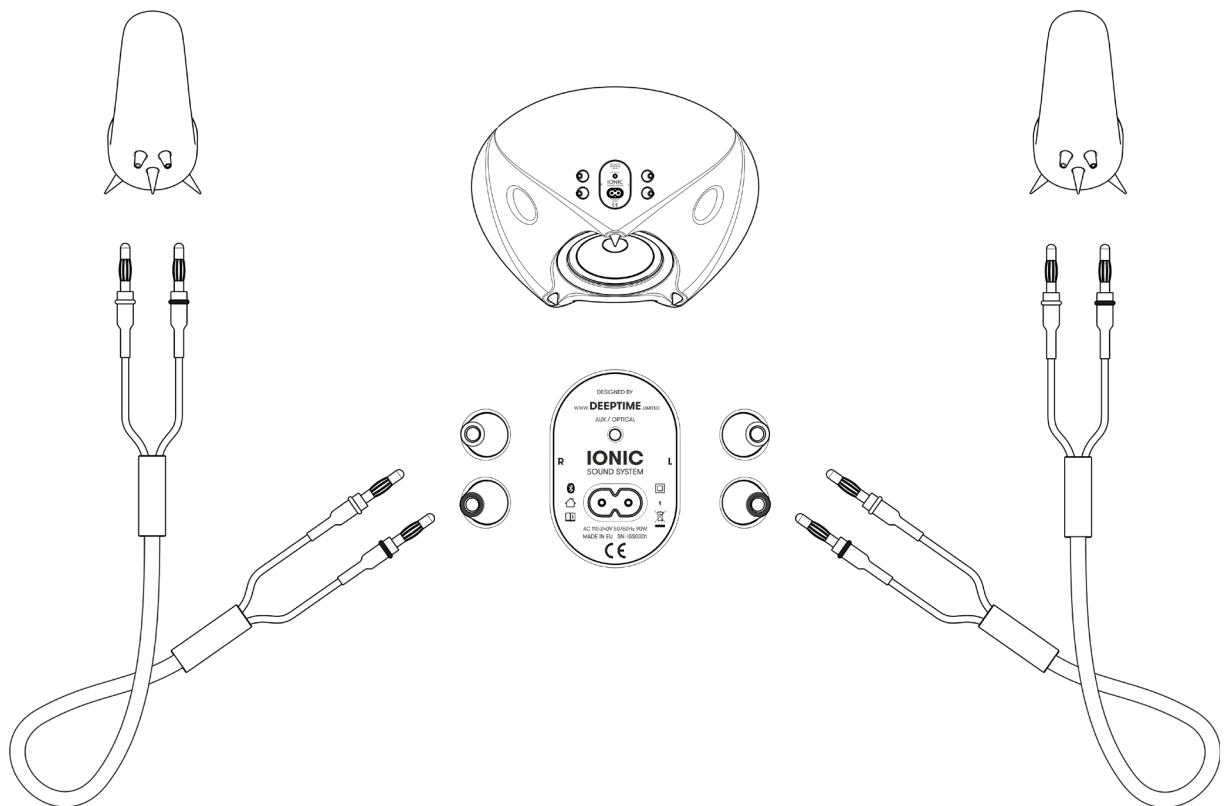
Ionicサウンドシステム(ISS)はThunderstone(サンダーストーン)サブウーファ兼アンプ、およびサテライトスピーカーのSpirula(スピラ)から構成されるシステムです。

この章では、ISSを設定し、テレビやお手持ちの機器に接続する方法についてご説明します。

Spirulaスピーカーを接続する

DEEPTIMEでは、ThunderstoneサブウーファとSpirulaスピーカーをすっきり美しく接続できるように、オーディオターミナルとそれに合わせたケーブルをデザインしました。以下の図にあるように、ケーブルとターミナルは色分けされていますので、同じ色同士を合わせて接続してください。

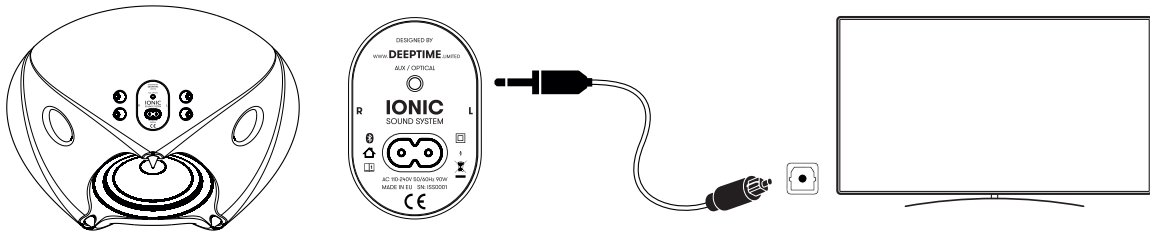
まず、アクセサリボックスに付属のプレミアムスピーカーケーブルをサブウーファに接続します。ケーブル側は黒い印のついた方のバナナコネクタを、サブウーファ側は前面に同じく黒い印が付いた下部の端子に接続してください。白いマークの付いたバナナプラグは、マーキングのない上部端子に差し込みます。Spirulaスピーカー側にも、サブウーファと同様に色分けされた端子が装備されていますので、同様に接続してください。



Ionicサウンドシステムをテレビに接続する

この章では、ISSをテレビに接続します。これで、テレビ番組の音声をISSを通して聴くことができます。

アクセサリボックスに付属のプレミアムオーディオケーブルのうち、黒い印のついた方のバナナコネクタを、サブウーファの背面下側にある、同じく黒い印が付いた端子に接続し、白い印の付いたバナナプラグは、印のついていない、上の端子に接続してください。Spirulaスピーカーにもサブウーファと同じ端子が装備されていますので、同様に黒い印のついている方同士を合わせるよう接続してください。

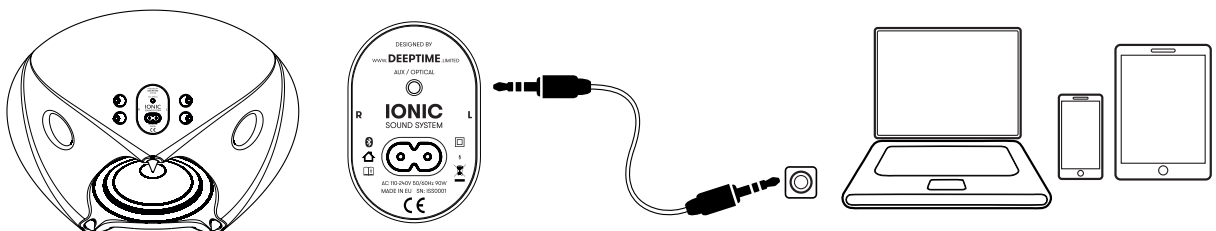


※ISSを外部スピーカーとして使うためには、テレビ側は外部オーディオ出力をサポートしている必要があります。適切に設定すれば、内蔵スピーカーは自動的に無効になるはずですが、テレビ側の関連設定詳細についてはテレビのマニュアルをご覧ください。テレビを購入された販売店等にご相談ください。

※上記の図では光ケーブルを使っていますが、次節にあるようにアナログミニケーブルも使用可能です。

Ionicサウンドシステムを他の機器に接続する

アナログケーブルを使用して、ThunderstoneサブウーファのAUX IN(3.5mmジャック)をポータブルデバイスのAUX OUT / 3.5mmコネクタに接続します。接続されたデバイスがオンになっていれば、サブウーファは信号を自動検出し、再生が開始されます。



システムの電源を入れます

ISSはユニバーサル電源を採用しています。100～240ボルトのAC電源に接続すると、電圧を検知して自動的に適切に動作するように設計されており、世界中どこでも使用することができます。

日本でご購入されたISSには、日本向けの取り外し可能な電源コードが付属しています。

ISSをオンにするには、電源コードの一方の端をThunderstoneサブウーファーに差し込み、もう一方の端をコンセントに差し込むだけです。この際、必ず付属の電源コードを使用してください。(純正付属品以外の他社製電源コードを使用して故障した場合、保証が無効になりますのでご注意ください)

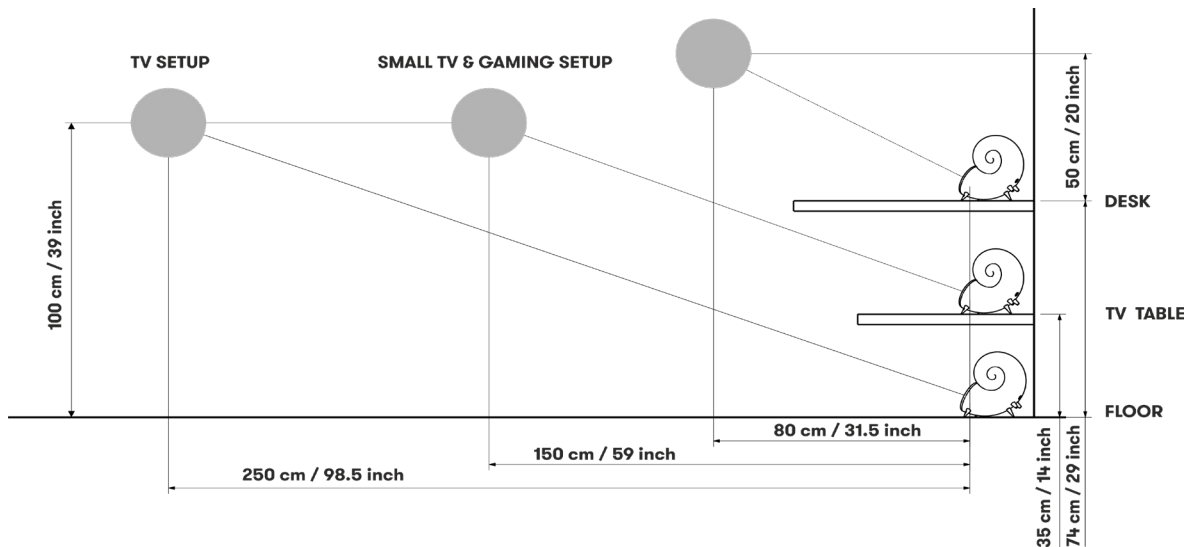
※本機には電源ボタンなどはありません。電源コードが接続されたらすぐに電源がオンになります。

Ionicサウンドシステムを設置する

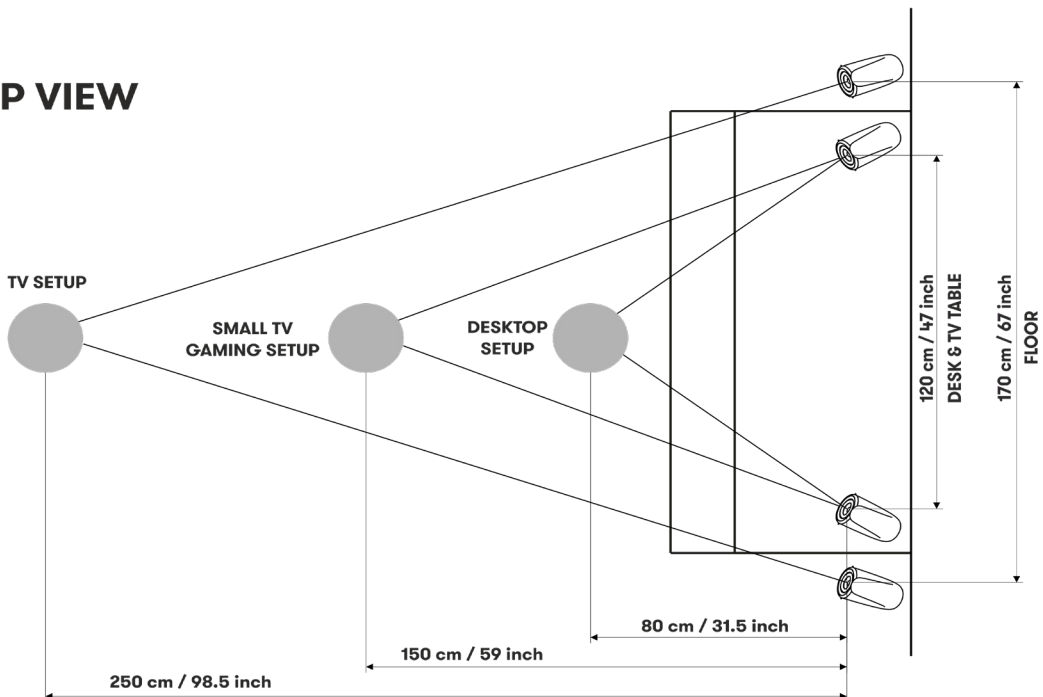
Spirulaスピーカーの設置

われわれDEEPTIMEの経験上、Spirulaスピーカーは、コンピューター、ラップトップPC、またはテレビ画面の中心から約0.6~1.0メートル離す必要があります。スピーカーは、リスナーの前方、または部屋の中心に向かってやや内振りに設置してください。Spirulaスピーカーには脚がついているので、追加のスピーカースタンドは特に必要ありません。スピーカーのユニットは少し仰角となっていて、耳の方に向くように設計されています。以下の画像は、Spirulaスピーカーの最適なリスニング距離を設定するための理想的な配置と角度の例です。

Spirulaスピーカーは、従来の素材でできた他の一般的なデスクトップスピーカーと比較すると、かなり重く、設置する際はこの重量を3つのスパイク脚で支えることになるので、繊細な接地面の傷やへこみを避けるため、同梱されている滑り止め防止パッドを使用することを強くお勧めします。これらのパッドを、机やテーブルの、スピーカースパイクの当たりそうな場所に挟んで、スパイクが接地面に直接当たらないようにしてください。



TOP VIEW



Thunderstoneサブウーファの設置

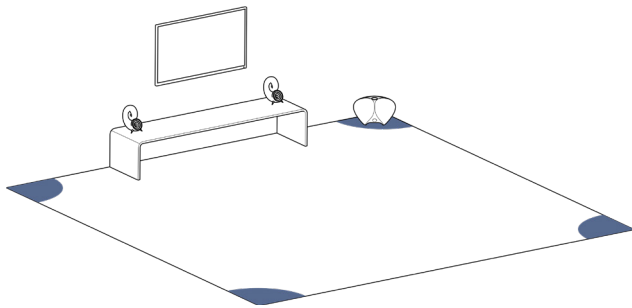
Thunderstoneサブウーファを置くのに最適な場所は部屋のどこでしょう。

低音は全方向に広がるため、部屋のほぼどこに配置してもそれほど大きな問題にはなりません。しかし、ベストポジションはどこか?となると、そう単純ではありません。部屋そのものの音響も考慮しなければなりませんし、利用できる空間の大きさ、床の通行、見た目のバランス、そして最も大切な音質など、現実の生活空間で音楽を鳴らすにはいろんな制約があるため、多少なりとも何らかの妥協が必要となるのが普通です。

しかし、設置の選択肢が限られる場合であっても、諦めないでください。たとえ数センチメートル単位の配置のわずかな移動でも、部屋全体の低音のバランスを改善し、より正確でバランスのとれた音にできる余地は大いにあります。ISSIはわずかなセッティングの変化にも敏感に反応できる、高い能力をそなえたシステムです。音を聴きながら部屋を歩き回るなどして、他の場所より少しでも音のバランスの良い場所を見つけましょう。

部屋のコーナーへの設置

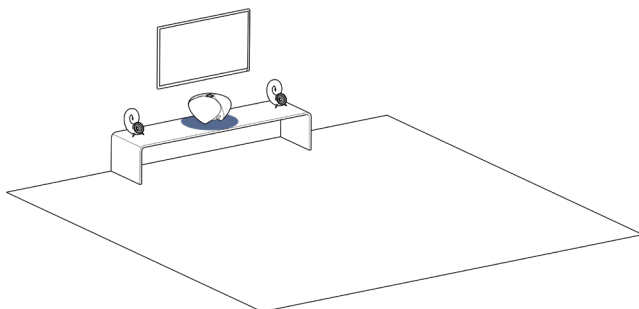
まず、サブウーファを部屋のコーナーに設置してみることをお勧めします。こうすることで部屋の響きを目一杯使うことができ、部屋全体に密度の濃い音場が広がります。室内に音響的な「デッドスポット」が発生することを完全になくすことまではできないかもしれませんが、最小限に減らすことは可能です。この前方コーナーの配置で素晴らしい音だと思ったら、さあ、あとはリラックスして素晴らしい曲をお楽しみください。



前方への設置

コーナーの配置がうまくいかない場合、あるいはコーナーに設置するスペースがない場合、サブウーファを正面に設置してみてください。サブウーファをオーディオセットの中央に配置するのは最も一般的ですし、サブウーファから出てくる低音とサテライトスピーカーの中高音とのブレンドも最適になるので、低音に対する室内音響の影響が最小限に抑えられます。

適切に設置すると、低音はあなたの周囲全体から湧いてくるように感じるはずですが、明らかにサブウーファの方向から低音が鳴っている感じに聴こえてしまう場合は、前方の壁に沿ってサブウーファの位置を変えるなどして、最良の結果が得られるポイントを見つけてください。



Ionicサウンドシステムを使う

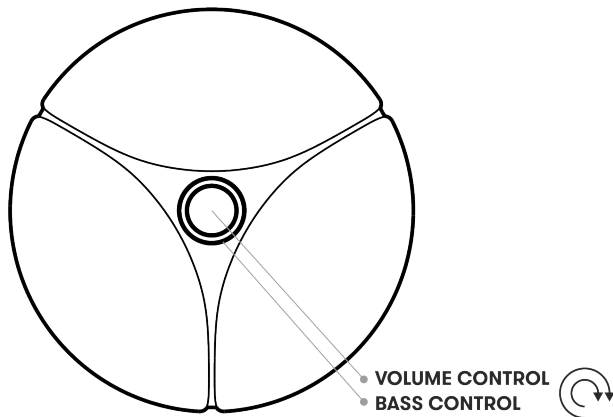
上部パネル

マスターボリュームコントロール(内側のホイール)

全体の音量は内側のホイール、つまりマスターボリュームで制御します。操作すると、スピーカーとサブウーファの両方の音量がまとめて変化します。

ベースボリュームコントロール(外側のホイール)

外側のホイールはサブウーファの音量を制御します。低音が不足しているなと感じたら、内側のホイールは動かさないようにしながら、外側のホイールだけを時計回りに回転させると低音の量が増えます。

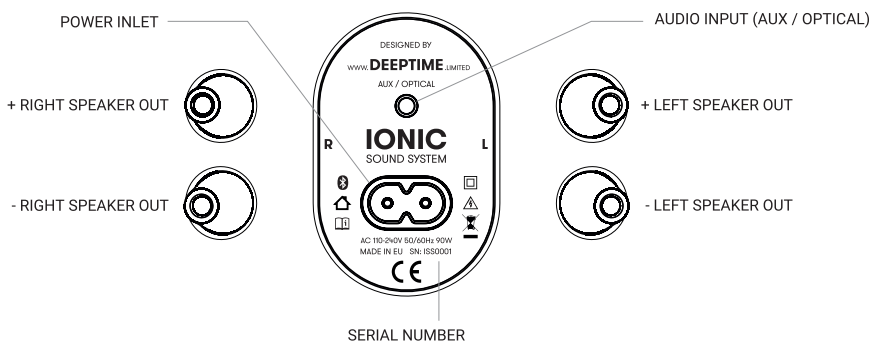


この2種類のボリュームコントロールは、アルミニウム製本体内部に搭載されたマグネットと、内蔵機器の上方に位置するセンサーとを組み合わせたモジュールで構成されており、従来の機械的なボリュームよりも丈夫で信頼性の高い画期的な構造となっています。また、ボリュームに使われているノブは、高品質のベアリングを使ってサブウーファに取り付けられており、摩擦は最小で、動作が滑らかです。さらに、このホイールは高効率の内蔵Dクラスアンプの冷却器としての機能も兼ねていて、動作中は少し暖くなるため、滑らかなアルマイト加工処理とも相まって、心地よい操作感をお楽しみいただけます。再起動(電源ケーブルの抜き差し)されると、ボリューム位置はデフォルトに戻ります。

リアパネル

デジアナ兼用オーディオ入力

簡潔で簡単な操作のため、AUX(アナログミニプラグ)とデジタル入力を1つの3.5mm径のデジタル・アナログ兼用プラグに統合しました。3.5mm径のアナログミニプラグとミニTOSリンク光デジタル入力のどちらでも接続することができます。光入力にはデジタル機器間の信号送受信の際にノイズの影響を受けないため、高品質で高速の音声信号の受信が可能です。本機は入力信号を自動的に検知するようプログラムされているため、ボタンなどを押す必要はありません。



BLUETOOTH(ブルートゥース)を使った無線接続

本機はハイレゾ機能を持ったオーディオ専用のBluetoothモジュールを使用しており、高度な機能と素晴らしいオーディオ体験を提供します。

BLUETOOTHに関する主な機能

- コーデック: aptX®、AACステレオ・オーディオコーデック
- 到達範囲: 10m以上

AptX® コーデック

AptXは高音質オーディオ機器に広く使われています。AptX®のダイナミックレンジは120dBに達し、他の方式よりも遅延が少ないのが特徴です。AptX®を使うことで、通常必要となるバッファリングの処理が不要となるため、遅延を劇的に減らす(改善する)ことが可能です。可聴帯域すべてを処理します。

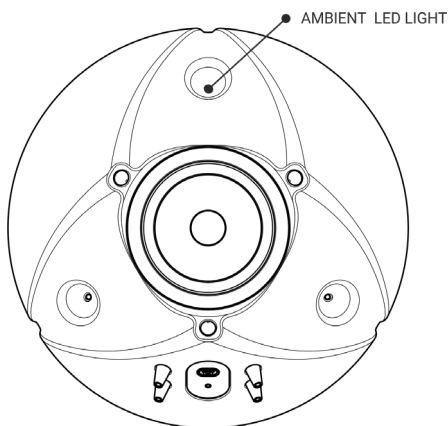
AACコーデック

AAC(Advanced Audio Coding)はMP3よりも優れた音質を実現する、YouTubeやiPhoneのデフォルトのオーディオ形式です。AACは、処理するのに100ミリ秒以上と、aptX®よりも遅延が大きいです。

アンビエント照明

Ionicサウンドシステム(ISS)はサブウーファ下部の3つの穴それぞれにLEDライトを備えています。これは雰囲気をつくる間接照明であると共に、以下の機能を備えています。

- ISSが電源に接続された際、すべてのライトが一回瞬くように強く光ります。やりました。これでISSは生きています。1秒後に、デフォルトの音量設定に対応する中程度の光が放射され始めます。
- なんと、ボリュームと光の強度は連動しています。ボリュームを上げると、光が強くなり、逆に、音量を下げると、光は弱くなります。
- スタンバイモードの場合、アンビエント照明は消灯します。



Bluetooth 接続(ペアリング)手順

1. 音楽を再生したい機器上(スマートフォン、タブレット、またはラップトップPCなど)でBluetoothがアクティブになっていることを確認してください。
2. Bluetoothメニューに移動し、周囲のデバイスを検索してください。
3. “DEEPTIME ISS”と表示されたら、それをタップしてください。Ionicサウンドシステムがペアリングされます。

※ISSの電源が入ってから(電源プラグを挿し込んでから)、Bluetooth接続を検出可能な時間は15分間だけです。ご注意ください。スマートフォン、タブレット、またはラップトップPCなどがISSを検出できない場合は、機器との距離が10メートルの範囲内にあることを確認してください。あるいは、電源からプラグを抜き、再び差し込んでISSをリセットしてみてください。

4. 接続が成功すると、ISSのLEDが3秒間点滅します。

ISSは、すでにペアリングされているデバイスとの自動ペアリング機能を許可します。ストリーミングデバイスがBluetoothの範囲内にある場合、自動的に接続されます。(デバイスが自動ペアリング機能をサポートしていることを確認してください。一部のデバイスは自動ペアリングをサポートしていない場合があります。)

5. 利便性のために、ISSはマルチ接続をサポートしています。(※複数機器切り替えであり、複数同時接続ではない) そのため、最大2台のBluetooth機器をオーディオシステムに接続できます。再生ボタンを押して音楽を再生した最後のデバイスがアクティブになります。ISSにすでにまたは新しく接続された別のデバイスでPLAYを押すと、そのデバイスが新しいアクティブなストリーマーになります。再生機器を切り替えるたびに、LEDが3秒間点滅してこの変化を示します。

ケーブル入力 (AUXミニプラグ/光デジタル)

統合TOSLINKレシーバーでは、2種類の接続が可能です。

- アナログ-3.5mmジャックの使用-ジャック接続ケーブル
- デジタル-3.5mmジャックを使用して-toslink光ファイバーケーブル

※両方のケーブルはパッケージに付属しています。

※デフォルトでは、ISSはBluetooth接続を優先します。

ケーブル接続で音楽を再生できるようにするには、Bluetooth機器からの再生がオフになっていることを確認してください。これには、Bluetooth機器側で[一時停止]を押すだけです。ISSは、入力ソースをBluetoothからケーブル接続に自動的に切り替えるまで約2~3秒かかります。

Ionicサウンドシステムの状態

オートスタンバイ

Ionicサウンドシステムは、非アクティブな状態が10分間続き、接続デバイスからオーディオ/ビデオが再生されない場合、自動的にスタンバイモードに切り替わります。スタンバイモードの際、アンビエントライトは消灯します。システムは、スタンバイに入る直前の最後の音量を記憶し、オーディオ入力またはBluetoothのいずれかから再び信号が入力されると、目覚めて、同じ音量で再生を再開します。スタンバイモードの際の消費電力は非常に少なく、その際、両方のボリュームノブはアクティブではありません。

オート・ウェイクアップ

音声信号が検出されると、システムが目覚まし、電源がオンになります。デフォルトでこの機能が有効になっているため、光ケーブルを使用してテレビに接続したりするときにも最も役立ちます。

工場出荷時の状態に戻すには

ISSを工場プログラムされたデフォルト設定にリセットするには、サブウーファまたは電気ソケットから電源コードを抜いて、再度接続するだけです。

仕様

Ionicサウンドシステム 一般仕様

- 合計最大電力:160W
- サテライト部最大出力:2 x 25W
- サブウーファ最大出力:110W
- サブウーファのスタンバイ電力:0.5W以下
- サテライト部スピーカーユニットサイズ:フルレンジ3インチ竹繊維紙コーン
- サブウーファードライバーユニットサイズ:ハイエンド5.75インチ、サブウーファ専用ドライバー
- 周波数特性:40Hz~20kHz
- 電源入力:AC100~240V、50~60Hz
- 動作温度:0°C~45°C

製品の寸法と重量

- スピーカーの寸法(幅x高さx奥行き):208 x 117 x 222(mm)
- スピーカー重量:2.4kg
- サブウーファの寸法(幅x高さx奥行き):372 x 372 x 239(mm)
- サブウーファ重量:6.5kg
- 梱包寸法(幅x高さx奥行き):500 x 500 x 500(mm)
- 梱包重量(合計):17.0 kg

入出力

- オーディオ入力:アナログ3.5mmステレオジャック、デジタル3.5mm光ファイバージャック、Bluetooth

Bluetooth仕様

- Bluetoothバージョン:3.0
- 最大到達範囲:10 m
- 送信電力:+6.5 dBm
- ビットレート:48 kHz DAC、16ビット
- ステレオコーデック:AptX[®]およびAAC

アンプ部仕様

- アンプ:Dクラス、1W~25W / 8オーム、の条件下で超低歪み0.005%THD+N
- サテライト部出力:2x RMS 30 W / BTLピーク電力60 W
- サブウーファ出力:RMS 55 W / PTBLピーク出力110 W
- DAC:24bit / 96kHz(ハイレゾ)

Thunderstoneサブウーファ仕様

- デザイン:トリプルポートエンクロージャー
- 材料:珪砂、アルミニウム
- 周波数特性:40Hz~200Hz

Spirulaスピーカー仕様

- エンクロージャー設計:密閉型、パッシブ(アンプ非内蔵)
- 材料:珪砂、アルミニウム
- 周波数特性:75Hz~20kHz

トラブルシューティング

この製品の使用に問題があると思った場合は、サービスにお問い合わせいただく前に次の点を確認してください。

システム

ユニットの電源が入らない。

電源コードがコンセントと本体にしっかり接続されているか確認してください。抜けかかっていますか？
また、コンセントに他の機器を繋いでみたりして、元の電気が来ているか確認してください。

音に関するトラブル

Ionicサウンドシステムから音が出ない

マスターボリュームホイールが完全に下がっていないこと、つまりミュート状態になっていないことを確認してください。オーディオケーブルをサブウーファからテレビまたは他のデバイスに接続します。Ionicサウンドシステムを工場出荷時の設定にリセットするには、電源コードを抜き、少なくとも10秒間経過後に再度接続してください。

サブウーファから音が出ない

サブウーファのLEDが黄色(琥珀色)に光っていることを確認してください。

Bluetoothに関するトラブル

Ionicサウンドシステムに機器が接続できない。

Ionicサウンドシステムがすでに2台のBluetooth機器に接続されていませんか？その場合は、すでに接続されているデバイスを切断してから再試行する必要があります。Bluetooth機器の電源を切ってから入れ直し、もう一度接続してください。問題が解決しない場合は、電源コードを一旦サブウーファから取り外し、10秒間以上待ってから再度接続した上でもう一度試してください。

接続されたBluetooth機器からのオーディオ再生の品質が悪い。

Bluetoothの電波の受信状態が悪い可能性があります。お使いの機器をThunderstoneサブウーファ本体に近づけるか、お使いの機器とサブウーファの間の障害物を取り除いてください。

接続されたBluetoothデバイスが、接続されたり切断されたりと不安定。

Bluetoothの電波の受信状態が悪い可能性があります。お使いの機器をThunderstoneサブウーファ本体に近づけるか、お使いの機器とサブウーファの間の障害物を取り除いてください。一部のBluetooth機器では、電力を節約するためにBluetooth接続を自動的に無効化する場合がありますが、その場合はシステムの誤動作ではありません。

保証とアフターサービス

Ionicサウンドシステムは、最高の品質基準に従って設計および構築されています。

しかしながら、万が一故障や誤動作が発生した場合、機器を購入した国での保証の対象となります。

日本で購入された機器の故障や誤動作についてのお問い合わせは、購入した日本の販売店、または日本正規輸入代理店のベッドフォードサウンド社にお問い合わせください。ただし、並行輸入品など、正規輸入代理店以外の経路で購入された場合、日本での保証対象外となりますのでご注意ください。

他の国で購入された場合、各国の代理店の連絡先は、メーカーの公式Webサイトwww.deeptime.limitedで確認できます。製品保証に関する国内法を合わせて参照することをお勧めします。

ご注意

- 製造に起因する欠陥は保証の対象範囲です。
- 必要に応じて販売店に提示するために、購入を証明する文書を保管しておいてください。
- 認定サービスセンターに機器を送送する必要がある場合の損傷リスクを最小限にするため、元箱と梱包材は捨てずに保管しておいてください
- 不具合が発生した機器は、誤動作または欠陥をご説明いただいた上で、返品いただく必要があります。

以下の場合、製品保証は無効になります。

- 認定されたDEEPTIMEサービスセンター、輸入正規代理店以外の人員によって分解または変更された場合。
- 使用条件が満たされなかった場合。
- このマニュアルの内容に従って使用されなかった場合。

電波法に基づくBluetoothの技術基準適合証明に関する情報

技適ID: R 209-J00052 ;相互承認(MRA)による工事設計認証

型番: WT32/Class 2 Bluetooth Module

製造元: Blue Giga Technologies Oy

種別: 第2条第19号に規定する特定無線設備

安全情報

一般的な操作について

- 本機で操作を行う前に、このユーザーマニュアルをよく読んでください。
- このユーザーマニュアルは、いつでも確認できるよう、すぐに届く場所に保管してください。ユーザーマニュアルは製品の一部であり、デバイスを移動する場合は製品とともに保管いただく必要があります。
- 製品を安全かつ効率的に使用できるように、このマニュアルの設置条件を遵守してください。
- けが、あるいは人や財産への損傷を防ぐため、スピーカーは安定した位置にしっかりと設置してください。
- システムを使用する前に、取り付け中の安全性を損なう可能性のある損傷、変形、欠落または損傷部品がないか、すべてのコンポーネントを確認してください

本機を次のような場所に置かないでください。

- 熱源(ラジエーター、ヒーター、ストーブなど)または裸火の近く
- 水の近く
- 湿度の高い場所や液体の飛沫にさらされるような場所
- 悪天候または直射日光にさらされる屋外;
- 不安定な家具やスタンドに置かれ、人や動物にぶつかると、本機が落下する可能性があります。
- 液体または裸火(キャンドルなど)を入れた容器に本機を置かないでください
- 電源コードまたは他の接続ケーブルがぴんと張られたり、歩いたり、人や動物がつかずような場所。
- お子様に本機を遊ばせたり操作させたりしないでください
- 電源コードは、安全性が確保できているソケットにのみ接続してください
- 雷雨の間、およびデバイスが長期間使用されない場合は、電源コードを電源ソケットから外してください。
- 本機を開いたり修理したりせず、内部を開ける必要があるようなすべての作業は、専門家に依頼してください。電源コードやプラグが損傷したり、液体がこぼれたり、物体が装置に落ちたり、装置が雨や湿気にさらされたり、正常に動作しなかったりするなど、装置が何らかの方法で損傷した場合は、修理や交換が必要です。

安全情報

次の記号も参照して、このマニュアルのすべての安全上の注意事項を順守してください。



注意: 信号が流れています



危険: 電気が流れています



燃えるごみではありません

保守について

本機はお客様による定期的な保守は必要ありません。何か不具合があった際は、お買い求めになった、あるいはお近くのDEEPTIMEの販売店か輸入代理店にお問い合わせください。

クリーニングについて

付属のクリーニングキット、または、きれいな柔らかいブラシを使用して、サブウーファーとサテライトスピーカーのケーシングのほこりを定期的に取り除いてください。表面を傷つける可能性があるため、硬いブラシの使用は避けてください。

長期間使用しない場合は、ほこりの付着を避けるため、適切なサイズの柔らかい布で本機を覆ってください。



外部ケース損傷の恐れがあります！
クリーニング製品、家具用ワックス、液体洗剤、アルコールは使用しないでください。
粗い布は使用しないでください。

廃棄について

本機を廃棄する場合は、各自治体のルールに従って、適切に廃棄してください。

警告

スピーカーで使用するアクセサリについては、DEEPTIMEにお問い合わせください。DEEPTIMEは、不適切なアクセサリまたは追加機器等によって引き起こされた損害についての一切責任を負いません。製品の機能、仕様、外観は予告なく変更される場合があります。DEEPTIMEは、以前に製造された製品を変更または改善する義務を負うことなく、設計または製造を変更または改善する権利を保有します。

免責事項

DEEPTIMEは、いかなる状況においても、製品の不正使用または改変に対して責任を負いません。

責任の制限

いかなる状況においても、DEEPTIMEは、契約、不法行為、その他にかかわらず、製品の使用または依存に起因する損失または損害について責任を負いません。いかなる場合においても、DEEPTIMEは、使用の損失、時間の損失、不便、商業上の損失、利益の損失、事業の中断、情報の損失、貯蓄またはその他の金銭的損失または損害から生じる損害または損失に対して責任を負いません。いかなる場合においても、DEEPTIMEは財産または人の損害または傷害に対して責任を負いません。

この節での「DEEPTIME」という用語には、DEEPTIME sroとその部門、子会社、関連会社、後継者、親会社、およびその従業員、パートナー、プリンシパル、エージェント、株主および代表者、および第三者プロバイダーまたは情報またはデータのソースが含まれます。

他社製ソフトウェアについて

この製品と一緒に他社のソフトウェアまたは機器をご使用いただけますが、DEEPTIMEは、そのような他社のソフトウェアまたは機器の品質、機能、操作、性能、または適合性について、明示的、暗示的を問わず、いかなる保証も代理も行いません。それに関する責任は、お客様およびそのような他社のソフトウェアまたは機器の直接の所有者または販売店等に帰属します。また、DEEPTIMEは、このマニュアルの内容に関していかなる保証も代理も行いません。DEEPTIMEは、このマニュアルをいつでも改訂したり、そのマニュアルに記載されている製品を予告なしに変更したりする権利があります。

DECLARATION OF CONFORMITY

DEEPTIME s.r.o with headquarters in U Panelarny 136, Bustehrad 273 43, Czech Republic, declare under our sole responsibility that the playback device:

IONIC SOUND SYSTEM

to which this declaration relates is in conformity to:

DIRECTIVE

2014/30/EU (EMC) Electromagnetic compatibility.

2014/35/EU (LVD) Low Voltage.

2014/53/EU (R&TTE) Radio equipment and telecommunications terminal equipment.

2011/65/EU (RoHS) Restriction of the use of certain hazardous substances in electrical and electronic equipment.

2012/19/EU (WEEE) Waste electrical and electronic equipment.

STANDARDS

EN 55032:2018

Electromagnetic compatibility of multimedia equipment – Emission requirements

EN 61000-4-2-ed.2:2009

Immunity standard for electronic equipment ability to withstand ESD generated from a human body or metal objects with a built-up static charge

EN 61000-4-4-ed.3:2013

Immunity of electrical and electronic equipment to repetitive electrical fast transients.

EN 61000-4-5-ed.3 +/A1:2015

Testing and measurement techniques – Surge immunity test

EN 61000-4-11-ed.2+/A1:2005

Testing and measurement techniques – Voltage dips, short interruptions and voltage variations immunity tests EN 301 489-1 V1.9.2:2011

Electromagnetic Compatibility and Radio spectrum Matters (ERM); Electromagnetic Compatibility (EMC) standard for radio equipment and services; Part 1: Common technical requirements.

EN 301 489-17 V2.2.1:2009

Electromagnetic Compatibility and Radio spectrum Matters (ERM); Electromagnetic Compatibility (EMC) standard for radio equipment and services; Part 17: Specific conditions for Broadband Data Transmission System.

EN 300 328 V1.9.1:2009

Electromagnetic Compatibility and Radio spectrum Matters (ERM); Wideband transmission systems; Data transmission equipment operating in the 2.4 GHz ISM band and using wide band modulation techniques; Harmonized EN covering the essential requirements of article 3.2 of the R&TTE Directive.

BLUETOOTH

CE

Bluetooth module is in conformity with the essential requirements and other relevant requirements of the R&TTE Directive (1999/5/EC). The product is conformity with the following standards and/or normative documents.

- EMC (immunity only) EN 301 489-17 V2.1.1
- Radiated emissions EN 300 328 V1.8.1 Silicon Labs Page 60 of 63
- Safety EN60950-1:2006+A11:2009+A1:2010+A12:2011

FCC

Ionic Sound System contains transmitter module

FCC ID:QOQWT32I (USA) IC:5123A-BGTWT32I (CANADA)

Bluetooth module complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation

FCC RF RADIATION EXPOSURE STATEMENT

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This transmitter meets both portable and mobile limits. The transmitter is not co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

IC STATEMENTS

Bluetooth module complies with Industry Canada licence-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions

- This device may not cause interference
- This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device

EMI CLASSIFICATION

According to the standards EN 55103 this equipment is designed and suitable to operate in E3 (or lower E2, E1) Electromagnetic environments.

FCC CLASS B STATEMENT ACCORDING TO TITLE 47, PART 15, SUBPART B, §15.105

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help. Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth® SIG, Inc. and any use of such marks by DEEPTIME s.r.o is under license. Other Trademarks and trade names are those of their respective owner.

